

## 学術ポータル担当者研修レポート

所属機関名	埼玉大学
受講者番号3	石井百葉（研究協力部図書情報課図書資料係）
受講者番号4	永井康友（研究協力部図書情報課）
受講者番号5	早川雅代（研究協力部図書情報課利用サービス係）

### 1. 発表資料の状況設定

図書館と情報メディア基盤センターとが一体となった「総合情報基盤基盤機構」の会議構成員（各学部副学部長、全学教育・学生支援機構及び総合研究機構の副機構長等）に対してリポジトリ構築計画を説明し、コンテンツ提供への協力を求める。総合情報基盤基盤機構会議後には、部局長会議においても同様のプレゼンテーションを行う。

### 2. 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

#### (1) 発表内容抄録

大学構成員の教育研究成果物を収集・蓄積・保存し、インターネットを通じて無償で学内外へ発信する埼玉大学学術情報発信システム SUCRA (Saitama University Cyber Repository of Academic Resources) には、期待できる効果として、可視性・可読性の向上、研究成果の保存負担軽減、教員総覧データベースとの連携によるデータ活用がある。学術雑誌掲載論文、紀要論文、科学研究費補助金成果報告書、学会発表スライド、学位論文、電子教材等を収録対象とし、運用は総合情報基盤機構が行う（システム構築・維持管理：情報メディア基盤センター、データ収集・蓄積・保存：図書館）。コンテンツ形成には教員の協力が不可欠であり、図書館が作成する学術論文リストに基づくコンテンツ提供のほか、リスト以外の学術論文・今後発表する学術論文・学術論文以外の手持ちコンテンツ（学会発表スライドなど）の提供、著作権処理に関する協力を求めている。

#### (2) 研修当日の講師からの助言

- ① 現行の発表資料では、状況設定されている会議の構成員に対する要望（学部長及び教授会への報告）を口頭で説明することになっているが、スライドで明示する方が効果的である。
- ② 著作権処理に関する説明で、最後に「許諾がとれない場合がある」と言ってしまうと、その印象が強く残ってしまう。「著作権所有者からの許諾が必要。（こちら側が）後でフォローできます」という言い方をした方がいいのではないかと。

#### (3) 研修発表との改訂部分

- ① 会議の構成員に対する要望を、スライドを使って説明することとした。
- ② 著作権処理については、当面の主たる収録対象をいわゆるグリーン・ジャーナルに掲載された学術論文とし、それに関わる図中心の説明に改めた。

### 3. リハプレゼンの概要

- (1) 日 時：平成18年8月1日（火） 11時
- (2) 場 所：埼玉大学図書館館長室
- (3) 発 表 者：永井康友
- (4) 発表対象：第1回 SUCRA 構築作業部会
- (5) 参加人数：10名（図書館長、教員2名、職員7名（研修受講者3名を含む））
- (6) そ の 他：9月14日（木）に行われた第2回作業部会においても改善等が検討された。

### 4. リハプレゼンへの反響

#### (1) 評価

プレゼンテーションの内容については、おおむね理解できるとの評価を受けた。

#### (2) 改善等の指摘

- ①本学としての特徴ある計画であることならびに本学研究者にとってのメリットを強調する必要がある。
- ②期待される効果に、本学としての特徴である研究者情報との連携を加えるとよい。
- ③「著者最終稿」については、教員の十分な理解が必要となる。
- ④（当初、収録対象として明示していなかった）教材について、現時点での優先度、本学における教育担当部門でのサービスの可能性なども勘案する必要があるが、収録対象に挙げることにより特色が示せるのではないか。

### 5. 備考

- (1) 発表資料の改訂は、リハプレゼン以後、コンテンツ形成に向けた計画具体化や学内における教員データ活用計画が進展したことなどに伴い、コンテンツ形成計画やリハプレゼンにおける改善等の指摘を反映したものとなっている。
- (2) 状況設定の総合情報基盤基盤機構会議は、10月19日に開催されることとなり、発表資料の内容はさらに調整する予定である。